

1) 肝と比べた脾への RI 集積は, milli MISA の方が平均 2 倍高く,かつ $^{99m}\text{Tc-phytate}$ と $^{99m}\text{Tc-milli MISA}$ のそれぞれにおける脾/肝の集積比はよく相関した.

- 2) 骨髄への RI 分布は両者同程度であった.
- 3) 腎の描出は $^{99m}\text{Tc-phytate}$ の方が高かった.
- 4) Back ground adirty は両者同程度であった.
- 5) 肝内 S.O.L. の描出に差はなかった.

以上より $^{99m}\text{Tc-milli MISA}$ は肝シンチ用の Agent として有用と思われた.

座長のまとめ (9~12)

仲山 親

演題 9: ^{99m}Tc で標識した EDDA は 100% の標識率を示し, 化合形態は安定で血中クリアランス, 肝集積は $^{99m}\text{Tc-EHIDA}$ より良好であった.

演題 10: $^{99m}\text{Tc-phytate}$ 5 mCi 静注後 10 秒ごとに 60 秒まで早期イメージとしてポラロイドに記録し, さらに total image に 10 秒ごとの log image をかけて疾患ごとに検討を加えた.

演題 11: 確定診断が得られ, ^{198}Au コロイドないし $^{99m}\text{Tc-Sn-コロイド}$ でシンチグラフィを行なった 52 例のび慢性肝疾患について, (1) 肝の形態, (2) 肝/脾, (3) 脾影, (4) 骨髄の描出度などの点について判定基準を作り検討を加えた.

演題 12: 同一症例に $^{99m}\text{Tc-microsphere}$ (Cis 製) と $^{99m}\text{Tc-phytate}$ により肝シンチを行ない, 肝, 脾, 腎, 骨髄などの描出度合, 肝内 SOL の検出能, バックグラウンドなどの点について検討を加えた.

13. 消化器癌肝シンチグラフィにおける偽陽性例について

広田 嘉久 上野 助義 土亀 直俊
福井康太郎 仏坂 博正 片山 健志

(熊大・放)

昭和 49 年 4 月より昭和 53 年 12 月まで行なった約 3,500 例の肝シンチグラフィのうち, 540 例の消化器癌患者の肝シンチグラムについて検討を行なった. 全体の正診率は 483/540 (89.4%) であった. 偽陽性例は 43 例にみられ, 疾患別にみると食道癌 5 例, 胃癌 8 例, 大腸癌 5 例, 胆道および膵領域癌 25 例であった. 共通してみられる原因は, 生理的欠損部位の欠損例, 肝のう胞, 肝硬変などであり, 特徴的にみられるものとして, 食道, 胃癌における腹腔リンパ節腫脹による欠損, 胆道および膵

領域癌における胆管拡張による欠損であった.

14. 乳房, 肋骨, 腎による肝シンチグラム上の欠損様所見について——体位による比較

城野 和雄 坂田 博道 中條 政敬

篠原 慎治

(鹿大・放)

われわれは, 肝内 SOL の検出における立位肝シンチグラフィの有用性を報告してきたが, 最近高解像力シンチカメラによる撮像を行なうようになってから, 肝外性因子による欠損像を以前より多く経験するようになった.

そこで肝外因子として乳房, 腎, 肋骨を取り上げ, これらの因子による欠損像の現われ方を撮像体位別に検討した.

対象は最近約 1 年間に立位と臥位の両体位で, $^{99m}\text{Tc-phytate}$ による肝シンチグラフィを実施した症例で, 乳房 (9 例), 腎 (6 例), 肋骨 (7 例) による欠損像が正面像で認められた 22 例である.

正面像におけるこれらの欠損像は, 臥位よりも立位で出現しやすい傾向にあり, 立位では乳房は右葉上部に, 腎は右葉中下部に decreased activity area として, 肋骨は右葉下外側縁にくびれた形で認められたが, 臥位では縮小ないし消失がみられた. また両体位とも, 右側面, 背面像との比較により肝内 SOL との鑑別は可能であった.

15. 肝シンチグラムと超音波検査との比較検討

仏坂 芳孝 中山 信一 赤川 晴美

森田誠一郎 大竹 久

(久大・放)

矢野 潔

(県立柳川・放)

昭和 53 年 7 月 1 日より 54 年 11 月 30 日までの 1 年 5 か月間に, 当科の外来入院患者で肝シンチグラムと超音波検査を併用した 80 症例について検討した. シンチグラム装置は, 53 年 7 月 1 日より 54 年 9 月 10 日までは γ カメラ東芝 GCA 102 型, 54 年 9 月 10 日以降は γ カメラ東芝 GCA 401 型, 超音波検査は電子走査型超音波断層装置で行なった.

結果は, 肝シンチグラムで SOL (+), 超音波で陽性所見を得たもの 30 例, SOL (-) で超音波で所見なし 22 例, うち超音波で見落とし 2 例, SOL (-) で超音波で所見あり 1 例, 両方共所見なしは 27 であった. sensitivity は 62%, specificity は 96% という成績を得た.